

# この街 あの人この人

## 1本の「綱」が地域の力を「つな」げる

小林丈人さん(いちはら大綱引実行委員長)



### 関東最大級の綱引き大会

いちはら大綱引は、9月29日(土)、上総いちはら国府祭り内で行われる総勢1,000人が参加する綱引き大会。この一大イベントを運営する団体の委員長を務めるのが、小林丈人さんです。

今年で6回目を迎える大綱引は、中心にある重さ約2トンの二段檣の上で団長が音頭を取り、長さ160mの綱を引き合う豪快

な催し。市内を東西南北の4地区に分け、加茂地区にある立國寺の出世観音など、4地区にそれぞれ伝わる源頼朝伝説をモチーフにした大旗の下、競います。

### 市民参加型の、いちはらを代表する行事へ

「負けて悔しがる姿を見ると、本気で挑んでくれているんだなとうれしくなります」と小林さん。いちはら大綱引の特長は、男性も女性も、子どもも高齢者も地域のさまざまな方が参加できることです。「今年も小学生から70歳代の方まで申し込んでくれます。すごいことですよ」と顔をほころばせます。

地域ごとの祭りはあったけれど、広大な市原市が1つになるような行事がなかったことから、市民全員が参加できるようなものを作ろう、ということで始まったこの大綱引。今ではリピーターも増え、昨年欠席した人は、ほとんどいなかったとのこと。市原市の恒例行事としてすっかり定着しました。各地区の団長は、町内回覧やツイッターな



160mの綱を総勢500人で引き合う様子は圧巻の迫力

どを駆使して引き手を募集。集まる早さも地域の団結力の強さを表します。

### 参加者の安全を第一に

そんな血気盛んなイベントを運営するのは一苦勞。参加者1,000人の移動や綱引きの終了時などは、一歩間違えればけがが出る恐れもあります。「事故がなく、皆さんに楽しんでいただくことが1番です」と、複数回にわたるリハーサルでは、綱の位置から当日の動きまで徹底して確認し、安全面に気を付けています。

昨年優勝したのは、八幡・市津・ちはら台地区の東軍。各地区の誇りを賭けた、一体感溢れる戦いを間近で見ましょう!

## 市民特派員

### レポート vol.5



土岐 特派員

#### 不老長寿の果物「イチジク」

今が旬のイチジクは、市原市が日本で初めて市場出荷したといわれ、市場でも高い評価を得ています。

栽培には大変な手間がかかりますが、今年の猛暑で収穫作業が特に大変とのこと。取材した農家さんお薦めの食べ方は、意外にも天ぷら。硬めのものを、半分にして皮をむき、衣をつけて揚げるそうです。



栄養価が高く「不老長寿の果物」と称されたイチジクを食べて、残暑を乗り切りたいですね。



詳しくは特派員フェイスブックで

直売所などでも販売  
問合せ シティプロモーション推進課 ☎9821

## 防災コーナー ⑦5

### 災害発生時は落ち着いた行動を

大規模な災害が発生すると、電車やバスの運行停止などで、帰宅が困難になります。

また、多くの人が一斉に帰宅を始めると、火災や建物からの落下物により負傷する恐れがあるほか、救助・救急活動の妨げとなります。

#### 身の安全を確保したら

- ・職場や施設など安全な場所にとどまろう。
- ・災害用伝言サービスで安否を確かめよう。
- ・交通情報や被害情報を入手しよう。

#### 日ごろから準備したいこと

- ・携帯電話と充電器を持ち歩こう。
- ・スニーカーや懐中電灯、手袋、飲料水や食料などを用意しよう。
- ・家族などと安否確認の方法、集合場所などを確認しておこう。



問合せ 危機管理課 ☎9823

## いちはら 歴史物語

### 115 いちはら文化財めぐり

#### 月崎駅周辺の文化財 その1 山間部の縄文時代のムラ

#### 月崎駅周辺の縄文遺跡

養老川中流域の丘陵上には、海岸部と比べると数は少ないものの、いくつかの縄文時代の遺跡が知られ、当時の山間部での暮らしぶりを今に伝えています。

#### 月崎寺の台遺跡

月崎駅から田淵地磁気逆転地層に向かう左手、標高90mの山の上に、永昌寺があります。この寺の墓地を増築する際、約5千年前の縄文時代中ごろの遺跡の発掘調査が行われました。地面

を掘りくぼめた竪穴建物と呼ばれる住まいが見つかり、その床には、直径60cmもある土器が埋め込まれ、いろいろの風よけに使われていました。また、建物跡の近くには大きな穴が掘られ、高さ50cmにもなる土器が埋められていました。食料や水の貯蔵、もしくは死者を葬る棺おけに使われたのかもしれない。

土器の他には、火山ガラス製の矢じりや、作成の過程でき

た石くずが多く見つかっています。これは、イノシシやシカの狩猟を主とした山の生活の証拠です。

#### 田淵石神台遺跡

標高100m、田淵地磁気逆



月崎寺の台遺跡で見つかった高さ50cmの大きな土器

転地層近くの県道沿いの丘陵上に、約3千年前の縄文時代の終わり頃の遺跡があります。県道拡幅の際に行われた発掘調査では、竪穴建物跡とともに、長さ40cmの石剣や土偶など、「まつり」に使われたとみられる多数の道具や、遠く北陸地方から運ばれたヒスイの勾玉などが見つかっています。海岸部と変わらず、山間部でも、同様なまつりが行われていたことが分かります。

853

問合せ ふるさと文化課 ☎29